

令和 2 年度 さいたま市立土呂中学校 自己評価書

校長 富田 敦



1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 授業時数増加を数学に充て、定期テスト前の朝自習の時間や問題練習のための数学の時間を確保し、基礎学力の向上に努める。また、生徒の学力・学習状況を各種調査により把握し、「新しいたま市の授業づくり」を基に授業改善や指導法の工夫に努める。—教育課程、教科経営、基礎学力向上
- (2) 授業規律について共通理解を深め、「主体的・対話的で深い学び」に基づいた授業や環境の整備に努める。「よい授業」の 4 つの因子の理解を深め、授業研究に生かしたり、小中の 9 年間を見通した視点を指導法に取り入れたりする。—特別支援教育、教科経営、基礎学力向上、教育相談
- (3) 授業や生活の様子等をこれまで以上に積極的に公開し、学校の教育活動について保護者や地域の皆様に知っていただく機会をさらに増やす。—PTA・地域との連携、小・中一貫教育・つぼみの日
- (4) 保護者と協力しながら、あいさつ運動やボランティア活動を推進し、生徒の自己肯定感や達成感を高める指導を充実させる。—生徒指導、ボランティア・福祉教育
- (5) 地域や保護者と連携し、教職員による地域巡回等により、生徒の登下校や地域での様子について現状掌握に努め、一層の交通安全指導を充実させる。—安全教育、PTA・地域との連携
- (6) いじめを未然に防ぐ取組やいじめを早期に発見する取組（各種アンケート等）やいじめが発生したときには初期対応を怠らない迅速で組織的な対応をする。—生徒指導、教育相談、特別活動、研究・研修
- (7) 教職員が学校業務改善計画を立て、計画的に業務を進めワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

2 評価結果について

- ・ 計算力向上を目指し、数学の時間増を計画通り実施し基礎学力の定着を図ることができた。R2 年度学校評価の職員用アンケートの結果では基礎学力の向上の評価項目の「基礎学力の定着を目指し、指導方法や ICT などの学習教材を工夫して「わかる授業」を展開していますか」、「生徒が授業に積極的に臨む態度や姿勢をもつ指導を行っていますか」に対しアンケートに回答していた全職員が肯定的な回答を示していた。また、生徒用アンケートの基礎学力の向上の評価項目の「授業の内容はよく理解できていますか」については、9 割を超える生徒が肯定的な回答をしている。また、1 割の生徒は学習の過程に何らかのつまずきや苦手意識をもっていることを見逃さず、家庭学習の定着の支援や定期テスト前の補習授業等に取り組んだ。生徒全員が意欲をもって学習に向き合い、理解を深めることができるように、今後も様々な活動を通して支援していきたい。
- ・ 「よい授業」の 4 つの因子の本校平均は、6 月に比べ 11 月は、4 項目とも上昇していた。
- ・ 授業規律は、9 割を超える教員が「徹底されている」と回答しており、昨年に比較して 1 ポイント向上しており、学習に集中し規律ある授業が進められていることがわかる。
- ・ 学校課題及び研究推進委嘱では 3 年間の研究を推進してきた「主体的・対話的で深い学び」に基づいた授業やユニバーサルデザインに基づく学びの環境の整備により、多くの成果を得ることができた。
- ・ いじめについては、「心と生活のアンケート」、「簡易アンケート」後の面談、生徒会の取組により、早期発見、防止に努めた。その結果、教職員アンケート「いじめのない学校づくり」、生徒アンケート「いじめのない学校」「先生は相談を親身になって聞いてくれる」の回答が 9 割以上、保護者アンケート「いじめのない学校づくりに努めている」では 8 割を超える肯定的な回答が得られた。
- ・ ボランティア活動はコロナ禍であったが、感染防止策を徹底し、学校全体で実施することができ、働く喜びと共に、通学路の環境美化活動として生徒に達成感と勤労の意欲を培うことができた。
- ・ 在校時間の管理を行い時間外勤務の削減を業務評価シートの目標として掲げた。放課後の会議の削減も年間計画に反映させ部活動指導の時間や子ども達と向き合う時間、面談等の時間を確保した。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・ 新学習指導要領の完全実施に向けて SDG s と関連した学校全体の取組も取り入れていきたい。
- ・ 小中一貫教育については、今年度小中でもともに取り組むこととなった「あいさつ」「靴の踵を揃える」等に 4 月から取り組み、一層の成果をあげたい。

※ A4 1 枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。